



2024年5月

発行

山梨大学
医学部附属病院

退任あいさつ

前看護部長 村松 陽子



この度、令和6年3月31日をもちまして退職いたしましたのでごあいさつさせていただきます。病院職員の皆様ならびに関係者の皆様には、長年多方面で大変お世話になりました。

特にこの3年間は、看護部長として病院職員の皆様と共に、新型コロナウイルス感染症対応や病院機能の強化、病院機能評価受審、看護師特定行為研修指定機関の開始、能登半島地震支援、電子カルテシステム更新等に取り組んで参りました。

その中でも新型コロナウイルス感染症におきましては、患者さんの入院受け入れはもちろんのこと、入院前PCR検査、ドライブスルーPCR検査、昼夜を問わない発熱外来、ワクチンの職域接種や3ヶ

所の医療強化型宿泊療養所運営等を院内の各部門と協働し全力で対応してきました。また、新型コロナウイルス感染症対応で医療が逼迫している地域の病院への支援として、大阪と沖縄へ合計17名の看護師を派遣しました。これらの活動を通して山梨大学医学部附属病院全体がひとつのチームとして機能し、山梨県の地域貢献と国内への貢献ができたことは、看護スタッフを含むすべての病院職員皆様の偉業であり、心からの敬意と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

在職中に多くの患者さんと沢山の仲間に出会い、様々な経験が積めたことは私の生涯の宝です。ここで培った「患者さんの命と仲間の命を守る」ことを大切にこれからの看護師人生も歩んでいきたいと思えます。

最後に、山梨大学ならびに山梨大学医学部附属病院の更なるご発展と、皆様のご健勝とご活躍を祈念し退職のごあいさつとさせていただきます。

退任あいさつ

前山梨県地域医療支援センター病院教授 大森 真紀子



このたび、令和6年3月31日付で定年退職いたしました。長い間たいへんお世話になり、どうもありがとうございました。私は、昭和59年から2年間、山梨県立中央病院内科で研修医として勤務した後、昭和61年に大学の1期生と共に産婦人科学

講座に入局しました。以来、加藤順三教授、星和彦教授、平田修司教授、吉野修教授と4代の教授のもとで、産婦人科の4領域（周産期、婦人科腫瘍、生殖・内分泌、女性ヘルスケア）を勉強し、臨床、研究、教育に生かすことができました。研究においては、婦人科腫瘍の分野で、人体病理学の先生方、

病理部の細胞検査士の方々のご指導のもとで、楽しく有意義な研究生活を送ることができました。

令和2年4月からは山梨県地域医療支援センターに所属し、副センター長として、山梨の医師不足・地域偏在対策、県医師修学資金貸与者に対するキャリア支援などの活動をさせていただきました。代々のセンター長、臨床教育部、センターのスタッフ、県医務課の方々のご指導、ご支援のおかげで、産婦人科業務も継続することができました。

当院ではこれまでに定年まで働いた女性の臨床医はおらず、私が初めてのことです。子育てしながら勤務を続けるのは、やはり大変でした。今後、育児や介護をしながら勤務を継続できる環境がより一層整うことを期待いたします。これまで、ご指導くださり、温かく支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

退任あいさつ

前社会医学講座教授 山縣 然太郎

「患者さんと共に医学・医療の進歩を担う大学病院」



私は公衆衛生学、疫学を専門として、健康寿命の研究やエコチル調査で、山梨県民の皆様には大変お世話になりました。無尽等の人と人のつながりや高齢者の社会参加が、山梨県民の健康寿命日本一の秘訣である等、多くの研究成果が生まれ、山梨県やわが国の健康政策に反映されています。皆様方のご協力がなければ得ることができなかった成果であり、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

さて、病気のメカニズム解明や創薬には基礎医学研究が必要ですが、実際の治療効果を明らかにするには、患者さんのご協力による臨床研究が不可欠です。当院ではこ

れまで多くの患者さんにご協力をいただきました。

患者さんに安心して研究にご参加いただくためには、前提として研究倫理が重要です。本学では国の医学研究倫理指針に基づき、倫理審査体制を整えています。審査委員は、医学・医療、法律学、人文・社会学の専門家に加えて、一般の立場を代表する方から構成され、がんの闘病を経験された患者さんの立場から見た貴重なご意見が審査に反映されています。

さらに、昨今、医学研究に研究参加者ご自身や一般の方が様々な場面で参画し、透明性のあるより良い医学研究の実施と成果の社会実装の推進体制を築くことが大切とされ、その実現に向けた取り組みが始まっています。今後も患者さんと共に医学・医療の進歩を担う当院にご支援、ご協力をお願いいたします。

退任あいさつ

前看護学科教授 田辺 文憲



この度、令和6年3月31日付で定年退職いたしました。山梨大学の皆様には大変お世話になりました。

私は平成5年に福島県立医科大学から山梨医科大学微生物学講座に異動し、5年間助手を務めました。その後、県立看護短大勤務を経て、平成14年から山梨医科大学看護学科教授に着任しました。本学には計27年間お世話になりました。

看護学科の授業では、解剖生理、微生物、病態生理など多くの分野の講義を担当しました。大学院では感染看護学と基礎看護学を担当し、優秀な修士、博士の大学院生を輩出しました。Covid-19の感染拡大で、医療スタッフは大変ご苦労されたと思います。

私は教育の中で感染制御に力を入れてきましたが、現場の皆様にも少しでも役立てれば幸いです。

平成25年から6年間、看護学科長を担当させていただきました。当時は、附属病院看護部と看護学科の連携をさらに強化することが課題となり、当時の看護部長のご尽力により、教育、研究、実践、地域連携などの各部門で、様々な企画を通して連携を深めることができました。また、山梨大学看護学会は附属病院看護部の会員が多く、看護現場の研究を推進することに大きな役割を担っています。

本学を巣立った多くの看護職の皆さんが、当院をはじめ県内外の医療機関・教育機関で活躍されていることを誇りに思います。

最後になりましたが、山梨大学の更なる発展を祈念いたします。

能登半島地震への当院 DMAT 派遣について

山梨大学病院 DMAT 統括医師 森口 武史

令和6年1月1日(月)、石川県能登半島地方を震源とする能登半島地震が発生したことを受け、厚生労働省および山梨県より DMAT 隊の派遣要請がありました。

当院では、翌1月2日(火)に第1班(医師2名、看護師2名、業務調整員1名(薬剤師))を編成し、



激励の言葉を述べる木内病院長

14時頃に当院を出発、道路状況が悪く約9時間をかけ公立能登総合病院の「DMAT 参集拠点本部」に到着しました。

翌日早朝から、被災した町立富来病院の「DMAT 活動拠点本部」に合流し、同病院に入院している患者さんの医療支援業務にあたりました。



第1班出動時の様子



第2班出動時の様子

1月4日(木)には第2班(医師2名、看護師2名、業務調整員2名(診療放射線技師1名、薬剤師1名))を編成、公立能登総合病院の「DMAT 参集拠点本部」に到着し、「DMAT 活動拠点本部」のミーティングに参加、その後第1班と合流し引継ぎが行われ、第1班は活動を終え帰還となりました。

第2班は「DMAT 活動拠点本部」から、同本部での病院避難、患者搬送調整業務の指示を受け、1月7日(日)まで本部任務に就き、後続隊の筑波大学 DMAT 隊に引き継いだ後活動を終了し帰還となりました。

その後も厚生労働省から DMAT の派遣要請があり、1月8日(月)第3班(医師2名、看護師2名、業務調整員1名(臨床工学技士))を編成、市立輪島病院内の「病院支援指揮所」で搬送調整、診療支援、傷病者の集計報告、感染対策に関する業務にあたり、1月13日(土)に後続の DMAT 隊に引き継ぎ、帰還となりました。



第3班出動時の様子

更に1月23日(火)に第4班(医師1名、看護師2名、業務調整員1名(事務職員)※医師については、業務の関係で後発医師と1月25日に交代)を編成、輪島市役所内の「輪島市保健医療福祉調整本部」にて、本部業務に従事しました。1月28日(日)後続隊の DMAT に引き継ぎ帰還、当院からの派遣は終了となりました。



第4班活動の様子

被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げますとともに、皆様の生活が一日も早く平穏に復することを祈り申し上げます。

病院情報管理システムの更新について

医療情報課長 浅川 辰仁

2月23日から25日にかけて電子カルテ端末やサーバ機器の入れ替え作業を行い、病院情報管理システムが更新されました。電子カルテシステムの更新は大変大きなリスクを伴いますが、新システムの導入やソフトウェアのバージョンアップのためには定期的な更新が必要です。

システムの停止中および再稼働時における診療への影響が最小限にとどまるよう、十分に考慮して作業を行いました。更新直後には小規模

なトラブルが発生しましたが、幸い大きな混乱は生じることができませんでした。

システム更新にあたりご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げますとともに、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。



第1回安全活動コンテスト開催

2月14日、第1回安全活動コンテストが行われ、5北病棟、消化器内科、薬剤部より、各部門における医療安全に関する取り組みについて発表していただきました。

発表者

5階北 原有希 看護師
消化器内科 村岡優 助教
薬剤部 菊池良介 薬剤師

◇ 5北病棟

この度は、このような発表の機会や特別な賞をいただきありがとうございます。今年度、5北病棟では「個人の責任ではなく、組織全体で安全を守るためのルール作り・相談しやすい風土作り」をベースに安全活動に取り組みました。事例検討会やポスター作成などの活動は、病棟スタッフや各科の先生方、認定看護師など様々な職種の方に協力いただき実施することができました。今後も組織全体で

安全な医療を提供できるよう活動してまいります。



◇ 消化器内科

この度は医療安全に対する取り組みを発表する機会を与えていただきありがとうございます。

インシデントの検討会では、医療的準則違反の有無の確認と、要因・改善策を探求する検討を行うことが望ましいとお話させていただきました。



働き方改革による時間の制約がありますが、今後もしっかりと検討していきたいと思っております。

◇ 薬剤部

この度、抗がん剤調製室で生じたインシデント事例を基にその原因究明と対策について発表させていただきました。インシデント事例を皆で振り返ることで、業務の見直しとより良い安全性の構築ができた機会であると捉えています。激動する情勢の中で様々な職種においてもタスクシフトが求められていると思っております。単なる効率化ではなくヒトとモノの最大化・最適化により医療の下支えができればと考えています。

入院・抗がん剤業務ライン（指示受け～調製・監査） 2023年10月31日 第一版	
① 薬剤 付け合わせ	✓ 薬剤全量計算書を用いて集計した薬剤をダブルチェック ✓ バコード照合を行い、Rp欄に入居用Boxへ薬剤を付け合わせる ✓ レジスタ集計終了後（注釈欄に2名の印刷）、付け合わせ後2名の薬剤師のチェックを受ける
② 指示受け	✓ 病棟別一覧表（薬剤師活用）より実施、保留、中止の確認 ✓ 調製者一貫に実施、保留、中止の記録 ✓ 薬剤師がレジスタへの記載 ✓ 不明の指示は保留して、病棟へ連絡 指示待ちにする ※ 病棟別一覧表（薬剤師活用）、調製者一貫を統一する ※ 保留時の申し送り確認する
③ 調製前 準備	✓ 室温確認 ✓ 消耗品を調製力に区分け ✓ 保留、中止の薬剤の区分け（件数を数え、調製しないようにする） ✓ ②：8:30のメンテナンスで実施し、それ以外は無用時間に関わらずに調製し、払い出し
④ 調製後 監査	✓ 薬剤（薬品名、使用数、残液、ラベル）の確認 ✓ 確数調製の計算、総液量の計算、ラベル改変の確認 ✓ そのほか項目の確認 ✓ ①のラベル、ラベルシート、アラート伝票の有無等 ✓ 調製者、ラベルにそれぞれ印鑑を押す ✓ 遺失票に入れ、1/10のラベルとラベルシートを払い出し ✓ 調製者一貫（調製後確認）に監査終了印鑑を押す
⑤ 払い出し	✓ 臨床用Boxへ薬剤使用、残液を払い出し ①～④と同様に臨床用Boxへ薬剤を払い出し（取り戻せるもの） ✓ 調製者一貫（払い出し）に用紙印鑑を押す
⑥ 締め作業	✓ 調製者一貫を7日に調製中止が完了が全て完了しているか確認 ✓ 入居用Boxの入り ✓ 調製者一貫・病棟別一覧表・抗がん剤調製室の保留 ✓ 中止薬剤の中止処理

敷地内薬局の開局について

管理課長 萩原 正直

かねてより建設中であった敷地内薬局が、令和5年12月1日にオープンいたしました。

本事業は、複数の事業者による企画競争の結果、株式会社アインホールディングスを選定したものです。

鉄骨造2階建て、延べ床面積が478㎡の建物は、1階に調剤薬局が入居し、2階は看護師特定行為研修のための研修室、職員用のフリースペース等で使用しております。

また、病院正面玄関から薬局入口と立体駐車場へのカバードウォークを設置し、病院利用者のサービス向上を図るとともに、看護師の修学環境整備を行いました。当院の理念である「すべての患者さんに安心を」につながるものと考えております。



開院 40 周年記念式典を開催

総務課長補佐 狩集 広行

令和5年11月24日（金）に甲府記念日ホテルにおいて、附属病院開院40周年記念式典・講演会を開催しました。

当日は、堀岡伸彦文部科学省高等教育局医学教育課企画官、長田公山梨県副知事、鈴木昌則山梨県医師会会長の他、大村智特別荣誉博士、県内選出の国会議員の方々にご臨席を賜り、歴代学長、歴代病院長など本学関係者も含め、約100名が出席しました。

記念式典では、木内博之病院長が、「県内唯一の大学病院また特定機能病院として、山梨県および県内医療機関とこれまで以上に連携を密にし、県内医療環境の更なる充実を目指してまいります。」と式辞を述べ、中村和彦学長が、「今後、利便性を高めた施設を計画しており、これまで以上に地域医療に貢献できる病院づくりを進めてまいります所存です。」と挨拶しました。



式辞を述べる木内病院長

講演会では、本学卒業生の河野 浩二福島県立医科大学理事・副学長（消化管外科学講座主任教授）から「Academic Surgeon を極める」と題したご講演をいただきました。



挨拶を述べる中村学長

講演会では、本学卒業生の河野 浩二福島県立医科大学理事・副学長（消化管外科学講座主任教授）から「Academic Surgeon を極める」と題したご講演をいただきました。

と題したご講演をいただきました。

祝賀会では、大村智博士、中谷真一衆議院議員、樋口雄一甲府市長、望月智中央市長等から祝辞を賜り、これまでの病院の歩みをスライドショーで振り返り、盛会裡に閉会しました。



講演する河野理事・副学長（福島県立医科大学）



式典の様子



山梨大学医学部附属病院開院 40 周年集合写真

令和 5 年度消防訓練について

防災・災害対策室

令和5年10月11日に消防訓練を実施しました。今年度は防災センターを火災発生場所として、火災通報・連絡および非常放送、自衛消防隊による初期消火、外来患者さんや来院者・入院患者さんの避難誘導・救護・警備等の訓練を行いました。



また、訓練終了後には水消火器を使用しての消火器訓練を消火器業者

の方にご指導いただきました。万が一に備え消火器の使用方を身につけることで、各自の防災意識を高めることができました。



今後も様々な訓練を実施し、より一層の防火・防災対策および災害発生時の安全確保に取り組んでまいりますので、皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

令和5年度研修医マッチング結果について

臨床教育部長 板倉 淳

令和5年10月に実施された令和5年度の研修医マッチングは、令和3年、4年に引き続き33名、マッチング率78.6%となり、新設17大学の中では実数で浜松医大と並んで1位、42国公立大学の中では病床数当たりの実数で8位でした。山梨県全体では昨年より1名減の66名、人口当たりの実数では47都道府県中11位という結果でした。昨年5月、COVID-19の5類移行に伴う行動制限の緩和により、病院見学を含む学生の動きが活発となり、さらには首都圏施設への回帰が顕著となりました。一方で、首都圏集中の抑止のため進められてきたシーリングにより想定以上のアンマッチ者が出る結果となり、本県でも10名ほどのアンマッチ者が2次募集で追加内定となり、本学では2名を3次募集で採用し、最終採用研修医数は35名となりました。専攻医数に関しては、県全体の専門プログラム参加者数は昨年とほぼ同数の58名となりましたが、本学では昨年の44名から6名減少し38名でした。この数年、全国的に総合診療、プライマリ・ケア

志向の学生、研修医が増加しています。本県では甲府共立病院のモラトリアムプログラムや家庭医療専門プログラム、県立中央病院の総合診療プログラムへの参加希望者がいる一方で、本学と市立甲府病院の受け入れ態勢が整っていない状況は今後の課題と考えています。

依然として地方国立大学が厳しい状況にある中で、本学を中心に県内に研修医を一定数確保できているのは、山梨県臨床研修病院等連携協議会を中心に各施設、行政、医師会等と連携し、オール山梨で若手医師育成を図ってきた結果と考えています。しかし、OSCEの公的化を始めとする医学教育改革、働き方改革により医師就業環境は変革期を迎え、若手医師の持続的な育成を実践するためには、診療・研究・教育の連動したタスクシフトによる学部・病院のシームレスな人材育成環境を確立することが必須です。

今後も全学をあげてのご理解、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

新設17大学におけるマッチング数・率

R2年				R3年				R4年				R5年			
順位	都道府県	病院名	マッチング率												
1	大分県	大分大学医学部附属病院	48/43/90	1	北海道	旭川医科大学病院	56/40/71	1	北海道	旭川医科大学病院	58/39/67	1	山梨県	山梨大学医学部附属病院	42/33/79
2	山梨県	山梨大学医学部附属病院	44/39/89	2	大分県	大分大学医学部附属病院	48/38/79	2	山梨県	山梨大学医学部附属病院	42/33/79	2	静岡県	浜松医科大学医学部附属病院	35/33/94
3	愛媛県	愛媛大学医学部附属病院	64/36/56	3	山梨県	山梨大学医学部附属病院	41/33/81	3	静岡県	浜松医科大学医学部附属病院	33/31/94	3	北海道	旭川医科大学病院	55/31/56
4	宮崎県	宮崎大学医学部附属病院	50/34/68	4	富山県	富山大学附属病院	36/28/78	4	香川県	香川大学医学部附属病院	49/31/63	4	滋賀県	滋賀医科大学医学部附属病院	39/30/77
5	滋賀県	滋賀医科大学医学部附属病院	45/32/71	5	滋賀県	滋賀医科大学医学部附属病院	42/28/67	5	愛媛県	愛媛大学医学部附属病院	52/26/50	5	愛媛県	愛媛大学医学部附属病院	46/30/65
6	北海道	旭川医科大学病院	65/30/46	6	愛媛県	愛媛大学医学部附属病院	61/25/41	6	宮崎県	宮崎大学医学部附属病院	50/25/50	6	山形県	山形大学医学部附属病院	50/21/42

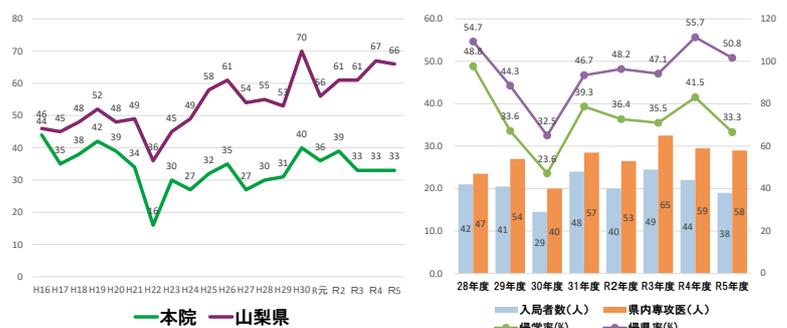
R5年国立大学病院618床当たりの研修医数

順位	都道府県	病院名	大学病院(施設別)マッチング数	病床数	618床あたりのマッチング数
1	東京都	東京医科歯科大学病院	94	813	71
2	東京都	東京大学医学部附属病院	97	1,246	48
3	茨城県	筑波大学附属病院	58	900	45
4	兵庫県	神戸大学医学部附属病院	65	834	43
5	京都府	京都大学医学部附属病院	71	1,141	38
6	千葉県	千葉大学医学部附属病院	49	850	36
7	静岡県	浜松医科大学医学部附属病院	33	613	33
8	山梨県	山梨大学医学部附属病院	33	618	33
9	大阪府	大阪大学医学部附属病院	57	1,086	32

R5年人口81万人当たりの研修医数

都道府県	マッチング数	81万人あたりマッチング数
1 和歌山県	90	81
2 京都府	252	80
3 奈良県	126	78
4 岡山県	171	74
5 東京都	1,224	71
6 長崎県	111	70
7 沖縄県	127	70
8 鳥根県	56	69
9 石川県	95	69
10 高知県	56	67
11 山梨県	66	67
12 滋賀県	113	65

山梨県マッチング・専攻医推移



「令和5年度医学教育等関係業務功労者」の表彰

令和5年12月15日、文部科学省において令和5年度医学教育等関係業務功労者表彰式が行われ、内田幹検査部副臨床検査技師長と舘田良仁放射線技術部副診療放射線技師長が表彰されました。

<受賞者コメント>

検査部 副臨床検査技師長 内田 幹

この度は「令和5年度医学教育等関係業務功労者表彰」をいただき、誠にありがとうございました。表彰式が終わって今思うことは、この栄誉は決して私だけの成果ではないということです。これまで私を指導し、時には叱咤激励をいただいた先生方や先輩方と私を支えてくれた同僚や多職種の皆様のお

かげであると実感しております。今後も多くの方々との絆、人間ネットワークを学内外問わず大切にし、引き続き仕事に邁進してまいります。

皆様には、これからも格別なご厚情、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



放射線技術部 副診療放射線技師長 舘田 良仁

この度は「令和5年度医学教育等関係業務功労者表彰」において選出いただき、心より感謝申し上げます。

平成元年から診療放射線技師業務に従事してまいりましたが、その間、多くの先生方や同僚の皆様に支えられ、励まされ育てていただきました。このような素晴らしい賞を受賞できたのは、私を支えてくださった皆様のおかげです。

今後も引き続き、患者さんの健康と安全に貢献できるよう、精一杯努力してまいります。また、現在までの経験を生かして後進の指導にも尽力していく所存です。

改めて、心から感謝申し上げます。変わらぬご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。



令和5年度医学部離任式

去る令和6年3月29日、退職される方の離任式が挙行されました。

初めに、齊藤医学域総務課長から退職される方の紹介があり、小泉医学域長・医学部長および木内病院長から永年の功労に対し感謝の言葉が述べられました。

続いて退職者お一人おひとりから挨拶をいただきました。式の最後には、在職職員から花束が贈呈され、盛大な拍手でお送りいたしました。



左から、村松看護部長、大森山梨県地域医療支援センター病院教授、木内病院長、小泉医学域長・医学部長、山縣社会医学講座教授、田辺看護学科教授、秋山総合医学センター教授

令和6年度新部門長等一覧

令和6年5月1日現在

病院長・副病院長・病院長補佐・病院長特別補佐

病院長	副病院長						病院長補佐			病院長特別補佐	
	労務管理・ 保険診療・ 病床管理	安全管理	再整備	臨床研究・ 放射線・栄養	看護・ 患者サービス	総務	臨床研修・ 癌診療	救命救急	感染	感染対策	病院経営 改善
木内 博之	波呂 浩孝	川村 龍吉	中島 博之	市川 大輔	杉田 俊江	石原 昭	桐戸 敬太	佐藤 明	副島 研造	塩島 正弘	森 琢磨

中央診療部門等

部門名	部長等	副部長等	部門名	部長等	副部長等	部門名	部長等	副部長等
検査部	井上 克枝	高野 勝弘 風間 文智	医療チームセンター	飯嶋 哲也		感染制御部	井上 修	
手術部	石山 忠彦	矢崎 正浩	生殖医療センター	吉野 修		薬剤部	鈴木 貴明	橋田 文彦 小林 みわ子
放射線治療部	大西 洋	小宮山 貴史	肝疾患センター	前川 伸哉		総合支援部	波呂 浩孝	三井 貴彦 市川 二郎 小泉 夫美子
放射線診断部	森阪 裕之	荒木 拓次	口腔インプラント治療センター	上木 耕一郎		業務支援センター	三井 貴彦	
放射線技術部	相川 良人	池川 博昭 館田 良仁	遺伝子疾患診療センター	石黒 浩毅	矢ヶ崎 英晃	医療福祉支援センター	三井 貴彦	
材料部	櫻井 大樹		循環器救急センター	佐藤 明	中島 博之	入院支援センター	市川 二郎	
輸血細胞治療部	井上 克枝	高野 勝弘	リウマチ膠原病センター	波呂 浩孝	川村 龍吉 中込 大樹	臨床教育部	板倉 淳	
救急部	森口 武史		アレルギーセンター	櫻井 大樹	中尾 篤人 三井 広 松岡 伴和	臨床研修センター	矢ヶ崎 英晃	
集中治療部	森口 武史	後藤 順子	IVRセンター	荒木 拓次	岡田 大樹	専門医キャリア支援センター	土屋 恭一郎	橋本 幸治
新生児集中治療部	犬飼 岳史	小鹿 学	てんかんセンター	加賀 佳美	佐野 史和	臨床実習センター	川端 健一	
病理部	近藤 哲夫	望月 邦夫	産前産後ケルビングセンター	石黒 浩毅	奥田 靖彦	特定行為研修センター	波呂 浩孝	
分娩部	奥田 靖彦		脊椎脊髄センター	波呂 浩孝	大場 哲郎 八木 貴	シミュレーションセンター	板倉 淳	川端 健一 矢ヶ崎 英晃 連沼 知津子
リハビリテーション部	波呂 浩孝	八木野 孝義	がんセンター	市川 大輔	桐戸 敬太	医療スタッフ研修センター	川井田 博充	三平 まゆみ
血液浄化療法部	中島 歩	後藤 順子 高橋 和也 澤田 智史	子宮内膜症ケアセンター	吉野 修	松原 寛知	山梨地域医療支援センター	土屋 恭一郎	橋本 幸治
光学医療診療部	高野 伸一	小林 祥司	病院経営管理部	小林 美亜		東部地域医療教育センター	榎本 信幸	山口 達也
総合診療部	針井 則一		栄養管理部	土屋 恭一郎		初期救急医療センター	森口 武史	R6.5.15～
臨床研究連携推進部	望月 修一		医療情報部	森口 武史	小林 美亜			
臨床工学部	中島 博之	望月 仁	医療の質・安全管理部	荒神 裕之	青木 真里			

看護部

看護部長	副看護部長				
	総務担当	診療報酬・人事担当	教育担当	業務・総合支援部担当	質保証担当
杉田 俊江	大門 恵美	北井 朋美	杉山 千里	小泉 夫美子	伊藤 雅美

部門名	看護師長	副看護師長	部門名	看護師長	副看護師長
医療の質・安全管理部	青木 真里	大久保 香織、東雲 由希	ICU病棟	鈴木 聖美	渡邊 裕美、小倉 幸子、近藤 健、中柄 創和、坂本 友紀
感染制御部		入倉 悠、野澤 ゆい	NICU病棟	萩原 千代子	清水 陽子、山本 明奈
がんセンター がん相談 通院・腫瘍センター・放射線部	大芝 まゆみ	青柳 しづか	GCU病棟	寺島 由美子	杉本 美貴、中込 美幸
医療チームセンター	金丸 明美 武田 陽子	堀井 悠	2階西病棟	茶谷 直子	三枝 栄江、深沢 泉、茂手木 智美
医療情報・診療報酬	山本 智子		3階西病棟	金丸 紀子	辻 稔、長田 和子、木村 慶太
治験担当	永田 明子		4階西病棟	伊藤 由香	青柳 恵子、山本 瑠実、田草 裕美子
教育担当	竹田 礼子	齋藤 渚、土橋 怜奈、保坂 美佳	5階西病棟	山本 秀美	大村 希依、橋本 佳奈子、川口 優里奈、土屋 公二
臨床教育部 研修・実習担当 シミュレーションセンター	連沼 知津子		6階西病棟	牧野 基美	後藤 詩乃歩、小林 可奈子、石坪 真佑見
臨床教育部 特定行為研修センター	三平 まゆみ		7階西病棟	内田 純子	八巻 真美、松岡 都、庭山 梢
総合支援部 入院支援センター 病床管理室	磯野 絵美	手塚 絵里子、粕山 史穂	4階南病棟	榎本 かおり	伊藤 祥子、望月 沙織、上原 良江
総合支援部 退院支援センター	松土 裕子	藤原 由理香、弦間 まみ	5階南病棟	高橋 里香	清水 美紀、神宮司 文、渡邊 祐将、日向 恵
総合支援部 働き方支援	大森 ゆかり		6階南病棟	穴水 美和	青木 絵梨子、小池 美和、松田 旬美
総合支援部 業務改善	窪川 佳世		7階南病棟		
総合支援部 医療福祉	岩澤 久美		4階北病棟	長澤 良美	河村 早紀、望月 文香、手塚 浩美
手術部	矢崎 正浩	土屋 一枝、溝口 真由美、熊谷 奈美、興水 めぐみ、家崎 美穂	5階北病棟	田邊 玲子	望月 あゆみ、石川 恵理、山中 浩代
材料部	渡邊 理映子		6階北病棟	河西 典子	高橋 真貴、市川 さやか、飯嶋 彰子、長澤 美佐子
ER 内視鏡・アンギオ・透析	戸栗 宏子	八代 佳奈枝、佐野 敦史、山本 雅弘、大沢 有紀	7階北病棟	金子 春美	秋山 友梨、浅野 ともみ、織田 茉莉恵、相川 真弓
外来	坂野 雅子 山本 ゆかり	神田 藍、名取 佐知子、溝川 由香里	管理師長	谷戸 るみ	R6.10～

医学域事務部

事務部長	課・室名		課・室長		補佐・専門員	
	石原 昭	総務課	笠井 秀二	狩集 広行、山中 章平、武井 幸子	医療支援課	根本 栄一
臨床教育支援室		大内 寿子		医療スタッフ支援室	早川 弘美	
学務課		平 洋子	加賀美 知美	病院経営企画課	京嵐 信昌	阿部 勉
管理課		萩原 正直	渡辺 徹、山本 明美、海老名 庸	医療情報課	浅川 辰仁	
医事課		井上 心	小林 静	医療情報企画室	山本 洋一	